

作成日 2018/08/07
改訂日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 男前モノタロウ バイク用マルチタイプ4サイクルエンジンオイル(MA 10W-30)
会社名 株式会社MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX番号 0120-289-888
整理番号 M181015

2. 危険有害性の要約 GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分外
健康有害性 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分4
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B
生殖細胞変異原性 区分2
発がん性 区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(肺)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肺 皮膚)

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
H320 眼刺激
H332 吸入すると有害
H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
H350 発がんのおそれ
H371 肺の障害のおそれ
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肺、皮膚の障害

注意書き 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

応急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

(P305+P351+P338)

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

保管
廃棄

施錠して保管すること。(P405)

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
石油系炭化水素	50～60%	不明	不明	不明	非公開
石油系炭化水素	20～30%	不明	不明	不明	非公開
石油系炭化水素	5～15%	不明	不明	不明	64742-54-7
添加剤	5～15%	不明	不明	不明	不明

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗う。

眼に入った場合

汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。

清浄な水で数分間注意深く洗う。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。

口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

5. 火災時の措置

消火剤

霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

特有の消火方法

棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがあ

火災によっては、刺激性のガスが発生することがあ

火元への燃焼源を絶つ。

周囲の設備等に散水して冷却する。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止

する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。

皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護

具及び手袋を着用する。

必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

保護具及び緊急時措置

作業の際には、保護具を着用する。

環境に対する注意事項
 封じ込め及び浄化の方法及び機材
 二次災害の防止策

土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ、側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。危険領域から人を退避させる。

危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウエスその他適切な物に吸収させ回収する。大量流出の場合、盛土で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意
 取扱い

技術的対策

指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。

必要に応じ、保護具を着用する。容器から取り出す時はポンプなどを使用する。細管を用いて口で吸い上げない。飲み込まない。

換気・廃棄対策

ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。屋内での取り扱い時は適切な換気下で行う。蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。

衛生対策
 安全取扱注意事項

取り扱い後は手と顔をよく洗う。容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。容器を倒したり、落としたり、ショックを与えたり、引きずったりしない。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。

注意事項

発火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
石油系炭化水素	未設定	未設定	未設定
石油系炭化水素	未設定	未設定	未設定
石油系炭化水素	未設定	未設定	未設定

設備対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。

保護具	呼吸器の保護具	取扱場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
	手の保護具	通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
	目の保護具 皮膚及び身体の保護具	長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
衛生対策		飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。 長期間にわたり、繰り返し取扱う場合には耐油性の長袖作業着を着用する。 汚れた衣服は脱ぎ、最使用する場合はよく洗う。 取り扱い後は手を十分に洗う。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態 形状 色	液体 粘潤液体 褐色透明 僅かな臭気 データなし
臭い 臭いのしきい(閾)値		データなし
pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし データなし データなし
引火点 蒸発速度 燃焼性(固体、気体)		>200°C データなし データなし
燃焼又は爆発範囲	下限 上限	爆発限界(1%) 爆発限界(7%)
蒸気圧 蒸気密度 比重(密度) 溶解度 n-オクタノール／水分分配係数		データなし データなし 0.88g/cm ³ 水に不溶 データなし
自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率) 動粘性率 その他		データなし データなし データなし 71.0000mm ² /S(40°C) 流動点 <-15.0

10. 安定性及び反応性

反応性 化学的安定性 危険有害反応可能性	情報なし 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混色危険物質との接触。 長時間の加熱、裸火、着火源。
混触危険物質	ハロゲン類、強酸化類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物	燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
------	----	---

	経皮	急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。
	吸入	毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。 (気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値が1.5mg/lのため区分4に該当。 10×(区分1+1A+1B+1C)+区分2+区分3の成分合計が70%のため、区分3に該当。 JIS Z 7252に採用されていないため区分3から区分外に変更。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		眼区分2Bの成分合計が70%のため、区分2Bに該当。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		
呼吸器感作性又は皮膚感作性	(呼吸器感作性)	
生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性		データ不足のため分類できない。 (皮膚感作性) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。 区分2の成分が50%のため、区分2に該当。 区分1Aの成分が50%のため、区分1Aに該当。 (生殖毒性) データ不足のため分類できない。 (生殖毒性・授乳影響) データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分2(肺)の成分が50%のため、区分2(肺)に該当。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分1(肺)の成分が50%のため、区分1(肺)に該当。
吸引性呼吸器有害性		区分1(皮膚)の成分が50%のため、区分1(皮膚)に該当。 動粘性率が71mm ² /s(40°C)のため、区分外に該当。
		毒性未知成分を考慮濃度(10%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。
水生環境有害性(長期間)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装		都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code.	非該当 Not applicable Not applicable
国内規制	航空規制情報 陸上規制 海上規制情報 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附 属書II 及びIBC コー ドによるばら積み輸 送される液体物質	非該当 非該当 非該当 非該当 非該当
緊急時応急措置指針番号	航空規制情報	非該当 なし
15. 適用法令		
労働安全衛生法		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
消防法		鉱油(政令番号:168)(10%-20%) 第4類 引火性液体 第四石油類
16. その他の情報		
参考文献		製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。
その他		危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。